

貝 石 画 譜

——江戸時代の化石図鑑——

糸魚川淳二*・赤木三郎**

Baiseki Gafu — An Illustrated Book of Fossils in Yedo Period —

Junji ITOIGAWA and Saburo AKAGI

筆者の一人赤木は鳥取大学図書館に、「貝石画譜」と題する和本があり、それが日本各地の化石を図示した、現在の化石図鑑にあたるものであることを発見した。産地としてあげられた地名は北海道から九州にまでわたるが、とくに西日本が多く、美濃、尾張、阿波、近江、土佐などが主なものである。

図はさまざまで、明らかに現在の学名に同定されるものもあるし、不明なものもある。中でも、美濃のうち、月吉産とされたものは数が多く、同定が可能である。貝石画譜の名は各種の博物学史の書の中に登場するが、内容については紹介された例を知らないので、いくつかを図示し、現在の知識での解釈を試みたい。

貝石画譜は耕雲堂灌圃著、文化元（甲子）年（1804）の発行で、縦約17センチ、横約11センチ、厚さ1.2センチの和本で、序2丁、本文23丁からなり、木版刷である。図版に見られるように、産地、収集者、簡単な説明をつけて化石94種、うち貝化石90種を図示してある。同定が可能な主なものについて説明する。

第1丁表 江州貝石 古琵琶湖層群産の二枚貝で *Anodonta* (?) であろう。

第1丁裏 (Fig. 10) 鮎河産 滋賀県甲賀郡土山町付近の鮎河層群（中新統）産の *Nipponomarcia nakamurai* IKEBE であろう。

金生山鬻貝化石 赤坂石灰岩産二疊紀の *Bellerophon* sp. である。

第7丁表 月吉産 (Fig. 8) 瑞浪層群（中新統）の *Hiatula minoensis* (YOKOYAMA) である。

第9丁表下 濃州金生山産 赤坂石灰岩中の *Murchisonia* であろう。

第12丁表 宇治産靱貝化石 (Fig. 6) 京都府綴喜郡宇治田原町産の綴喜層群（中新統）の *Nipponomarcia nakamurai* IKEBE と思われる。

第13丁裏上図 濃州山内村産 (Fig. 9) 瑞浪層群（おそらく明世累層山野内層）産の *Teredo* sp. である。「蚯蚓のカタマリタルニ似テ色瑪瑙ノ如シ」と記載されており、図からも判断できる。*Teredo*（フナクイムシ）の記載として、日本で最初のものであろう。

第16丁裏上図 備中奈利和産 (Fig. 7) 岡山県成羽町付近の三疊系産の *Monotis* であろう。第19丁表上図 備中産も同様である。

* 名古屋大学理学部地球科学教室・瑞浪市化石博物館嘱託 Department of Earth Sciences, Nagoya University, Nagoya

** 鳥取大学教育学部地学教室 Department of Geology, Tottori University, Tottori

1978年11月23日 受理

第17丁表下図 勢州産 (Fig. 5) 三重県一志郡を中心に分布する中新統一志層群産 *Macoma* sp. である。図・解説とも、現在、同地で産する化石の状態とよく一致する。

第19丁裏 (Fig. 4) 濃州産 (上図) は *Euspira meisensis* MAKIYAMA であろう。

月吉産 (下図) は “*Nassarius*”, *Batillaria*, *Phos* などであろう。いずれも瑞浪層群月吉層産で、内型で、玉髓置換のものであろう。

第21丁表 (Fig. 11) 蚌化石 滋賀県甲賀郡甲賀町神保産の古琵琶湖層群産の *Anodonta* (?) である。変形があると考えられる。

第22丁表上図 (Fig. 3) 月吉産 *Vicarya yokoyamai* TAKEYAMA であることは明らかである。いわゆる「おさがり」である。産地は瑞浪市明世町月吉、瑞浪層群明世累層月吉層産のものである。

以上の他、御嶽産として二枚貝、巻貝がある。御嶽の地名は不明だが、御嵩 (岐阜県可児郡御嵩町) で、同地近くの瑞浪層群 (恐らく瑞浪市内) 産のものである可能性がある。2丁表下丹州産の二枚貝は但馬から丹後に多く出る *Panope* と思われる。土州鴻峯産の貝類がいくつかあるが (3丁表, 11丁表, 14丁, 18丁表など)、唐ノ浜層群産のものであろうか。3丁表下のものは二枚貝に着生したフジツボであろう。第5丁にある牡蛎化石は木曾産とあるが、この地方での産出は疑問で、産地の誤り、あるいは珪化木であるかもしれない。信州産の3点は新第三紀産のものらしく、その一つは下条産とあり、伊那谷の富草層群産のものであろう。

貝類以外では越中イミズ郡産のウニ (9丁裏) があり、*Echinarachnius* のように思われる。尾州大野産の図 (12丁裏) はヒトデのように見えるが、確かでない。産地も未確認である。11丁裏下は金生山産の貝類か腕足類の破断面で、方解石で充填された内核を示すと思われる。

産地として現在確認できるのは、前述の地名の他、勢州柳谷 (三重県安芸郡安濃町)、越後クヒキ (新潟県頸城)、九州天草 (熊本県天草島)、尾州ダチ邑 (岐阜県土岐市駄知町) などがある。地方別に見ると、四国 19 (土佐 10, 讃岐 4, 阿波 5), 中部地方 18, 関東甲信越 9, 近畿 7, 東北 4, 九州 3, 中国 2, 北海道 1, 計 62 となり、著者耕雲堂灌圃の交遊関係、あるいは行動範囲を示して興味深い。

耕雲堂灌圃については、現在知識をもっていない。序文から察すると役人であつたらしい。国書総目録によると、他に次の著書がある。

介石録 (文化元年), 化石奇異貝品画譜, 閑窓録 (文化元年), 貝石品図 (文化元年)

すべて同じ年の刊行であり、貝石画譜には貝化石譜とするものもあり、同一書がいくつか含まれる可能性がある。灌圃およびその著書については今後の研究課題としたい。

鳥取大学図書館所蔵の本書は小川鋤吉旧蔵書である。小川鋤吉は安政2年 (1855) 生れ、尾張の人で、明治一大正の実業家として著名で、大学南校に学び、米国留学、文部省、日本郵船、明治製糖、神戸電鉄などにおいて重要な地位を占め、大正8年 (1919), 65才で没した。大変な蔵書家であった。

鳥取大学の蔵書になったいきさつは、大正11年 (1922) が学制発布50周年にあたり、鳥取高農 (鳥取大学の前身) が図書購入したことによる。当時の校長は山田玄太郎教授で、和書を収集しておられ、図書館の原簿によると、この年の一時期に、鳥取の書店から約60冊の和書が購入されている。植物・花卉の図鑑、農書など、主に図入りのものである。大正8年に小川鋤吉氏が亡くなり、処分された蔵書が鳥取高農に買い入れられたのが本書である。

調査が十分でない点もあるが、日本の化石、とくに瑞浪地方のそれに関係が深いので紹介した。不明な点については今後明らかにしてゆきたいが、同時に御教示を頂きたいと思う。

参 考 文 献

白井光太郎 (1934), 改訂増補日本博物学年表. 437 p., 大岡山書店.

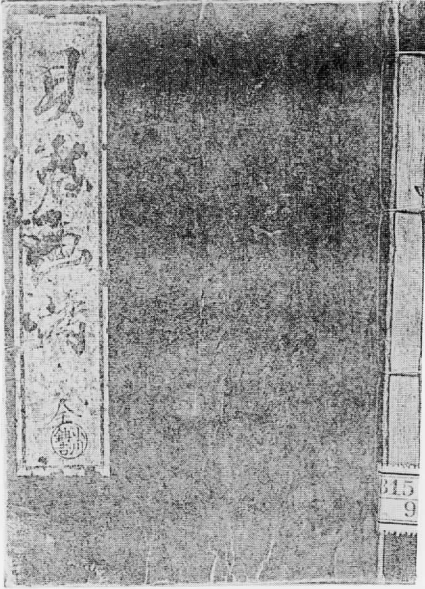
上野益三 (1973), 日本博物学史. 680 p., 平凡社.

大人名辞典 (1953), 3 卷, 平凡社.

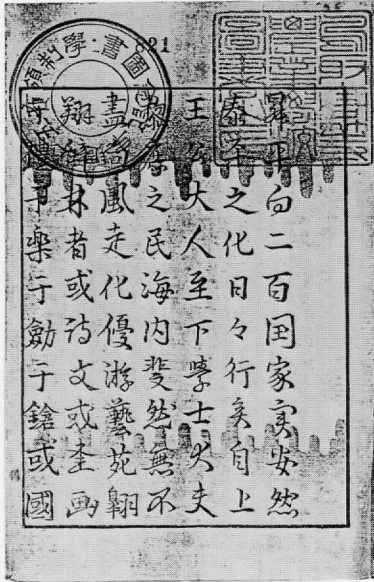
国書総目録 (1964, 1969), 第 2 卷, 第 6 卷, 岩波書店.

貝石画譜 Baiseki Gafu (Illustrated book of fossils)

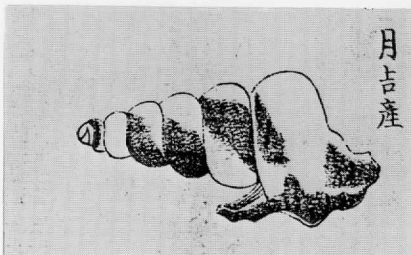
- Fig. 1. 表紙 Cover
Fig. 2. 序言 Introduction
Fig. 3. *Vicarya yokoyamai* TAKEYAMA 月吉産 Tsukiyoshi, Mizunami
Fig. 4. 貝類 Mollusks 月吉産 Tsukiyoshi
Fig. 5. *Macoma* (?) 一志産 Ichishi, Mié
Fig. 6. *Nipponomarcia nakamurai* IKEBE 奥山田産 Okuyamada, Kyoto
Fig. 7. *Monotis* 成羽産 Nariwa, Okayama
Fig. 8. *Hiatula minoensis* (YOKOYAMA) 月吉産 Tsukiyoshi
Fig. 9. *Teredo* sp. 山野内産 Yamanouchi, Mizunami
Fig. 10. *Nipponomarcia nakamurai* IKEBE 鮎河産 Ayugawa, Shiga (上 upper),
Bellerophon 赤坂産 Akasaka, Gifu (下 lower)
Fig. 11. *Anodonta* (?) 甲賀産 Koka, Shiga



1



2



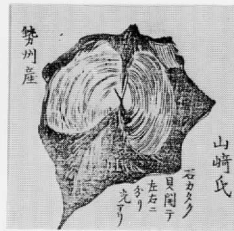
月吉産



濃州産

両品上モ白ク
メキエノ如シ

月吉産
尾炎
松密堂



繁州産

山崎氏
石ヤツカ
見聞テ
左カニ
元リ

4



濃及
曲鈴館

宇治産
鞠見化石

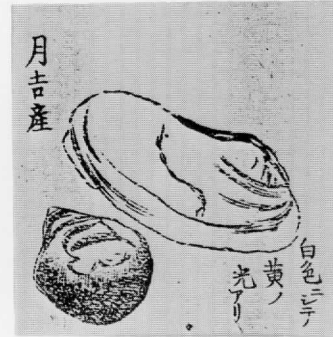
6



備中
奈利和産

高上

7



月吉産

白色ニテ
黄ノ
光アリ

8



濃州
山内村産

羽州産

好清庵

尾州
太玄智普堂
海中セイト云ルモク化石ナルヨシ
蚯蚓ノカタマリタルニ似テ
色瑪瑙ノ如シ

9



鉛川産

城州
神原氏
鼠色ニテ
石至下カク
カケタル所ニ甚
光有

金生山髪見化石

10



江州
石亭

淡海甲斐谷神保村
断化石

11